

## 第10回日展

### 第3科（彫刻） 審査所感

審査主任 能 島 征 二

第10回日展は、平成26年の大改革後10年目の節目の年で、第1回文展以来116年の展覧会となります。コロナ感染症も5類に移行し通常の展覧会事業が実施されることになりました。

第3科彫刻は、草創期より具象表現を真摯に求め、作家各位が多様な表現を重視しながら、お互い技術を磨き、高い品性、感性、造形性を求めてまいりました。

コロナ禍がすぎても厳しい社会状況の中、積極的に制作に挑み、入選作は、質の高い表現が見られました。厳しい造形性、作家の内面に宿る造形思考を重視した作品を入選作としました。

特選は、各審査員が入念に審査し、厳格な視点でより質の高い8点を審査員の総意として選出しました。

彫刻の会場では、日展が求める歴史的な具象の形態を継承し、各作家が内的な造形精神や、その技術を具象表現に込めた多様な彫刻作品の魅力を感じて頂きたいと思っております。

搬入数	95点
入選数	68点
(内新入選)	17点